

令和4年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
目標値の達成度(83.3%~100%)	達成見込

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	160,300	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値	
				68,919	人		達成率43.0%（目標参考値101,704人に対する達成値67.8%）	
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	26,700	人	達成	基準値: 39,303人 目標参考値: 39,303人	
				31,494	人		39,303人 × 0.68 ⇒ 26,700人(*1)	
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,040	件	未達	基準値: 1,032件 目標参考値: 1,032件	
				617	件		達成率59.3%	
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	14,116,000	円	未達	* 当該年度予算計上額	
				11,659,497	円		達成率82.6%	

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
目標値の達成度(83.3%~100%)	達成見込

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	特別展・企画展	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	16,720	人	達成	基準値: 24,572人 目標参考値: 24,591人	
				20,033	人		24,591人 × 0.68 ⇒ 16,720人(*2)	
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	40	校	達成	基準値: 34校 目標参考値: 40校	
				64	校			
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	71	校	達成	基準値: 92校 目標参考値: 92校	
				80	校		92校 × 0.77 ⇒ 71校(*3)	
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による	
				31,069	点			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	407	件	未達	昨年度実績による	
				294	件		達成率72.2%	
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	526,930	件	未達	基準値: 496,529件 目標参考値: 526,930件	
				457,028	件		達成率86.7%	
7	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による	
				94	%			
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による	
				86	%		展覧会3回の満足度合計 ÷ 3	

*1・2 工事休館を除く開館日数比率 209日 ÷ 306日 = 0.68

*3 R03実績を踏まえた実施率 66校 ÷ 86校 = 0.77

美術展80.2%、列島展82.5%、銘仙展96.4%

259.1 ÷ 3 = 86.366...

2. 年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>2 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>3 学校教育との連携</p> <p>4 他施設等とのネットワーク機能の充実</p> <p>5 戦略的広報の推進</p> <p>6 改修工事の実施</p>
事業の実施状況と過程	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化遺産活用調査事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・『無形文化財調査研究事業』『巡り・廻りの民俗行事Ⅱ』の実施 ・『歴史遺産調査研究事業』『新編武蔵風土記稿』総合調査』の実施 ○計画的な資料点検、保存状態の確認及び保存環境の整備推進 <p>2 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企画展「埼玉武術英名録」開催 ○共催展「昌国寺」開催(会場: 鉢形城歴史館) ○巡回展「発掘された日本列島2022」・同時開催地域展「埼玉の史跡」開催 ○「新収集品展2020・2021」開催 ○企画展「銘仙」開催 <p>3 学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校団体受入れ及び出前授業の実施 <p>4 他施設等とのネットワーク機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○MVO連絡協議会の9施設による連携事業開催準備(大盆裁まつりをはじめ4か所の地域主催イベントへのブース出展、大宮公園ツアー・キーワードラリーの実施) ○埼玉県博物館連絡協議会等の運営 <p>5 戦略的広報の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○館ホームページの充実(巡回展期間中に連載ブログ、工事休館中にスタッフブログ、れきみんクイズなどで情報発信中) ○各種媒体により館事業の紹介を発信(Twitterによるホームページのブログ・れきみんクイズ更新のリンク広報) <p>6 改修工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会教育施設建物いきいき回復事業による改修工事の着工
事業の成果	<p>1 資料点検を計画どおり実施し、資料の保存環境を整備した。文化遺産活用調査事業は計画どおり実施中。</p> <p>2 当初計画どおり、企画展、共催展、巡回展を実施した。巡回展「発掘された日本列島2022」では多くの集客があり、企画展「埼玉武術英名録」、企画展「銘仙」では新たな観覧者層の掘り起こしができた。</p> <p>3 80校の学校団体を受入れ、64校に出前授業を実施した。</p> <p>4 MVO主催で周辺施設と連携し、大宮公園ツアー、キーワードラリー、地域主催イベントへのブース出展を行った。</p> <p>5 ホームページで巡回展の連載ブログ、工事休館中にスタッフブログ、れきみんクイズを発信した。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	34人 (22人)	総予算額 (人件費を除く)	106,662,000円	職員一人あたりの県民人口	21.6万人 * 1
収蔵資料総点数 (R4.3月末現在)	126,919点	事業経費 (上記の内数)	78,015,000円	利用者一人あたりのコスト (令和3年度)	1,905円 * 2
令和3年度 収集資料点数	638点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	14,116,000円 (7,861,750円)	県民人口に対する利用者割合 (令和3年度)	0.84% * 3

(注)令和4年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,331,256人である

* 1 117,569,000 ÷ 34 ⇒ 21.6万人

* 2 117,569,000 (R3総予算額) ÷ 61,687 (R3利用者数) ⇒ 1,905円

* 3 61,687 ÷ 7,331,256 ⇒ 0.84%

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	資料収集方針
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価会議開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し、管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫・殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及び記録化の実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用、資料別光度測定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	月2回のIPM作業・資料点検時等確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新を実施

項目	チェック内容		評価(A～C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数 142点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数 8点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数 211点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	適宜更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	B	現在検討中
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	B	ボランティアガイドの制限
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、葉書、電子申請
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	特別体験メニューの制限緩和
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ホフアティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、見学実習
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	館HPで公開
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共催事業(プレミアム講座等)
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	大盆祇祭りをはじめ地域主催イベント4箇所にブース出展
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産調査活用事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系に基づき実施
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	C	未実施
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	令和3年8月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪	館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	A	常設展解説パネルの多言語化を実施
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季の延長設定
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の利活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	利用者数はほぼ回復
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	埼玉連研修会・MVOキーワードラリー・文化財講習会等

3. 館別独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
特別展・企画展事業の実施	① 中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	A	アンケートの要望を参考
	③ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	A	新出資料の展示、記念講演会開催
	④ 全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	A	特別展2回 企画展3回予定
	⑤ 模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	A	映像や音声の利用
	⑥ 展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	A	展覧会ごとに観覧者アンケートを実施
	⑦ 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	年間目標値を設定
	⑧ 展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	① 勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝太刀・短刀、国宝慈光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品他
	② 公開承認施設として資料を公開しているか	A	特別展で借用・公開
	③ 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	A	埼玉連による研修会・見学会の実施
	④ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼玉連会長館及び事務局
	⑤ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	関博協、歴民協等
	⑥ 県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	経営総合調整会議
ゆめ・体験ひろばの運営	① 地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	② 埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	同上
	③ いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	B	ものづくり工房体験メニュー予約制
	④ 世代間交流ができるプログラムを提供しているか	A	ペーゴマ教室等開催
	⑤ 常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥ 多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	A	昭和の原っぱイベント復活
	⑦ 地域と連携したプログラムを提供しているか	A	組紐体験等の実施
	⑧ 学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統文化の記録・公開・継承	① 県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	② 展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	有形民俗文化財長板中型・青織の展示
	③ 県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	A	民俗芸能講習会実施
	④ 伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	民俗工芸実演の実施
新コロナ感染症対策	① 館内利用者を介したクラスターの発生はなかったか	A	クラスター発生。クレームなし
	② 利用者から館の対応に関するクレームはなかったか	A	

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために実施した対策(令和4年度)

* 赤字は今年度に制限緩和した内容

利用者への説明	館内外の掲示、ホームページでの周知
入館制限	入場者数の上限設定、館出入り口の制限→5月から南門を開放、発熱や風邪症状のある方の入館制限
入館者管理	検温、手指消毒、入館カード記入依頼(氏名・連絡先・発熱等体調不良の有無)→11月から取りやめ
施設管理	職員及び委託業者による消毒、換気の徹底、受付カウンターにアクリル板の設置
職員の衛生対策	マスク着用や手指消毒・健康管理の徹底、発熱や風邪症状のある職員の出勤自粛
館内行動の制限	会話制限の依頼、十分な間隔をあけての観覧やマスク着用の依頼、椅子・コインロッカー・幼児コーナー等の利用制限→コインロッカーは5月から制限解除、ハンズオン展示等の制限→夏休み前(7月下旬)に復活
講堂・講座室の制限	利用人数制限
事業の制限	体験メニューの事前予約制の導入、ボランティア活動の制限、接触を伴う体験事業の中止→子どもまつり・ベーゴマ教室復活
県全体の対策実施	主催事業の中止・延期・規模縮小、感染防止アプリのダウンロードの依頼

令和4年度 博物館施設 総合評価 (令和4年度末)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	1	3
各館独自	数値目標による評価	6	2

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	87	2	1
各館独自	チェックリストによる評価	27	1	0

自己評価総括

評 価	<p>【利用者・入館者・展示・普及事業等】</p> <p>・今年度は12月5日からの工事休館にもかかわらず、利用者数は昨年度比で5,476人増となった(R3:61,687人)。内訳としては、特別展・企画展の観覧者数、及び常設展観覧者数が目標値を共に大きく上回った。特別展・企画展では、6・7月の「巡回展」、10～12月の企画展「銘仙」の集客が好調であった。両展覧会ともに、一日あたりの観覧者数が昨年度最も集客の多かった特別展「青天を衝け」を上回った(別添参考資料)。4・5月の企画展「埼玉武術英名録」では、武術関係者をはじめ武術に関心のあるお客様、企画展「銘仙」では、着物姿のお客様(特に20～50代の女性)が多く見られ、それぞれの展覧会において、これまでにない層の掘り起こしにつながった。秋には国宝太刀・短刀の公開が企画展開催期間と重なり集客に相乗効果をもたらした。特別展関連イベント「銘仙ファッションショーin歴民」では県立越谷総合技術高等学校服飾デザイン科とコラボし、これまでにない斬新な企画として参加者から好評を得た。</p> <p>・無料入館者数の中で、「ゆめ・体験ひろば」、講堂、レストランなどの無料スペースの利用者数が昨年度と比べ大きく増加し(R3:20,709人→R4:30,631人)、新型コロナ感染拡大以前の状況に徐々に回復している。これまで新型コロナ感染対策により、普及事業や施設利用に様々な制限を設けてきたが、今年度は南門の開放をはじめ、体験メニューの拡大(予約枠及び体験時間)、自由自在座のハンズオンコーナーや昭和の原っぱの遊び道具の復活など、必要な感染防止対策をとりながら制限の緩和に柔軟に取り組んだ。今後もこの方向で感染防止対策を徹底しながら、お客様の利便性の向上に向けて制限を緩和する必要がある。</p>
	<p>【調査研究・資料の保存管理】</p> <p>・基礎的な調査事業や資料保存対策は着実に実施できた。収蔵資料の点検作業は、資料点検年次計画に基づき実施しており、目標値を大きく上回った。</p> <p>【学校利用】</p> <p>当館を利用した学校数全体では昨年度比からさらに増加した(R3:126校→R4:139校)。学校団体の受入れでは目標値を上回り、利用状況がコロナ前に戻りつつある。出前授業校数も休館期間中の積極的な対応により昨年度を大きく上回った(R3:40校→R4:64校)。</p> <p>【情報発信】</p> <p>・対マスコミ情報発信件数は昨年度比で減少したが、今年度は工事休館とともに特別展・企画展が例年より少なかったことが影響していると考えられる。なお、改修工事による臨時休館後は、ホームページでスタッフブログ、れきみんクイズなど配信し積極的な情報発信を実施した(12/5～3/31:スタッフブログ16本、れきみんクイズ11本、Twitter40本)。</p> <p>【地域連携・活性化】</p> <p>・地域イベントの復活に呼応して、積極的にブース出展して体験事業とともに広報活動に取り組み、地域の賑わいに貢献できた。ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会(大宮公園周辺の関連9施設の協議会)を核とした周辺施設との事業連携は今後も重要である。予算がない中ではあるが、地域活性化のための新たな模索が必要である。</p>

課題	<p>①長期休館中でも館ができることを実施していくことが求められる。</p> <p>②埼玉ならではの魅力ある特別展・企画展や普及事業を実施し、新しい観覧者層を掘り起こして、利用者増につなげる。</p> <p>③新型コロナ対策による制限が博物館利用の利便性向上の足枷となっている。</p> <p>④長期休館中も博物館ならではの積極的な情報発信の継続が求められる。</p>
対応の方向	<p>①可能な限り館外での事業を検討、実施する。館外での出張展示、出張講座を実施する。工事休館中の活動については、担当の垣根を越えて設置した3つのプロジェクトチーム(「情報発信チーム」「イベント開催チーム」「館内環境整備チーム」)を中心に、具体的な取組みを検討し実施する。</p> <p>②これまでに実施した特別展・企画展について、客観的な評価を充分に行い、良い教訓を活かしながら、新たな観覧者層の掘り起こしを意識した新しい展示テーマや関連事業を検討する。</p> <p>③県と埼博連の方針を遵守しつつ、ボランティア活動の拡大、事業参加者の定員枠の拡大など、状況に応じた新たな制限緩和を実施する。</p> <p>④工事休館中プロジェクトチーム「情報発信チーム」と各担当が協力し、HPのスタッフブログ、SNS(YouTube、Twitter)を活用した情報発信を継続する。</p>

評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会の意見	<p>(A委員コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数については、工事による閉館日を除いた開館日数による目標達成値が67.8%という点は、昨年度の39.1%を大きく上回っており、目標値未達ながら、コロナ対応に努めつつ3年間続けてきた事業継続の成果といえよう。 ・広聴・広報(全館共通項目3)および年間HPアクセス件数(鑑別独自項目6・情報提供サービス利用状況)が未達である点は残念に感じられる。工事休館中には、広報活動とHP・SNSによる発信に力をいれていただきたい。 ・共催展「昌国寺」の開催は、高く評価したい。当館寄託の昌国寺の資料を、昌国寺の地元である寄居の鉢形城歴史観で開催した意義は大きい。こうした県内の他館との共催事業は、準備・調整等困難も多いと思われるが、続けて開催してほしい事業である。 ・館独自チェックリストのうち、コロナ対応のため昨年度は「B」であった項目の多くが、大幅にA段階に引き上げられ、また、コロナ対策制限緩和状況一覧より、コロナ前の業務状況に戻りつつあることがうかがえる。コロナ後の事業再開に向け、さらなる改善もお願いしたい。 ・無料スペースの利用が大幅に回復するなか、コロナ以前と同じように、親しみやすく県民に身近な博物館としての活動が継続されていくことも期待したい。 <p>(B委員コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全館共通項目での未達項目が目立つが、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いたことと、12月5日からの翌年10月までの工事休館の影響でやむを得ない部分はあろう。ただ、休館が予定されていたのであれば、予めそれを織り込んだ目標値を掲げるなどの工夫は必要ではなかったか。折角、来館者が回復傾向にあり、感染症の影響も少なくなっている中で未達が目立つことは、関係各方面によい印象を与えないことを懸念する。・チェックリストの諸項目が、一部の普及活動や相手先のある調査研究活動を除きほぼ達成できている点は、日々の皆さんの努力の賜として敬意を表したい。特に資料の点検作業が目標値を大きく上回ったことは、博物館活動の根幹として高く評価できる。 ・これに関連して、「自己評価総括」の①に「長期休館中でも館ができることを実施していくことが求められる」とあるが、長期休館中だからこそ、普段の繁忙の中では難しいじっくりと取り組むべき課題の遂行をしてもよいのではないか。例えば「全館共通項目チェックリスト」―「調査研究活動」⑧で未達成(C)となっている「他館や他機関との間で共同研究等を行っているか」などを推進するための研修や職員の他機関への派遣など。普及活動も大切だが、学芸員の皆さんの研究時間の確保も重要であると考えます。 ・展覧会で普段来館しない観覧者層の掘り起こしができたことは大きな成果である。勿論、このような層が他の主題に関心を持つとは限らないが、まずは多様な関心を有する人に博物館に足を運んでもらうことが大切なので、コアな支持層を大切にしつつ、様々な試みを行っていただきたい。
--------------	--

(C委員コメント)

・コロナ禍の影響が大きかった昨年と比較し、工事休館期間があるにもかかわらず、利用者数が大きく回復したことは幸いであった。特に企画展「銘仙」の集客が堅調だったことは、企画内容の魅力によるものだったと考えられる。特別展・企画展の開催は様々な層の関心を喚起し、集客の増大やリピーターの獲得に結び付くことから、特に力を入れて展開してほしい。

・また、無料入館者数の増加もコロナ禍からの回復を示している。新型コロナ感染症が5類に移行し、感染対策の大幅な緩和や制限の解除が可能となることから、工事終了後はさらに多くの来館者があることが見込まれる。県民にとって身近な博物館であるよう、繰り返しの訪問を呼び起こせるような体験メニューの充実や施設の拡充について検討してほしい。

・加えて、コロナ禍の事実上の収束により日本全体としてはインバウンド旅行者の増加が見込まれる。日本の歴史や民族に関心がある外国人旅行者にとっては魅力的な施設であり、認知度の向上や来訪に向けての訴求の方法を考えることが必要である。

・学校利用(団体受け入れ、出前授業)についても増加したことは評価できるが、絶対数としては物足りなさを感じる。児童・生徒は社会科や地理歴史科の授業で学んだことを実物により体感し、探究を深めることができ、学校にとっては博物館との連携は教育の充実のためにきわめて有意義であるし、児童・生徒の感性がみずみずしいうちに博物館に親しむことで、生涯にわたって博物館を身近に感じるようになるものである。また、学芸員の仕事や歴史・民俗にかかわる調査・研究の仕事に触れるというキャリア教育の側面も期待できる。博学連携に関する目標値の設定をもう少し高くして、積極的な広報を展開し、多くの団体受け入れや出前授業の実施ができることを願いたい。

・出前授業については、対象の学年を小学校低学年から高校生まで幅広く設定し、授業のメニューも学校のニーズに応じて複数のパターンを開発できるとよい。

・情報発信についてはYouTubeチャンネルの開設やtwitterの投稿など時代に即した努力を継続している点が高く評価できる。しかしながら、チャンネル登録者数やフォロワー数については今後の伸びを期待するという状況である。SNSは拡散の機能が活用されることが何よりも重要である。見た人の多くが「これは他の人に広めたい」と思えるようなコンテンツを意識的に展開することで、爆発的な拡散が起きよう考えてほしい。

博物館の役割にも様々なものがあるが、展示の充実と両輪の関係にあるのは調査研究活動である。県立博物館であるからには、県内全域を対象とした調査研究をさらに充実させてほしい。県内所在の他博物館や大学等との共同研究の実施も望まれる。学芸員が積極的に研究に携わり、その成果を展示だけでなく学会や著作物(論文等)により公表し、社会へ還元することを期待したい。